

(別紙4)

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270100732
法人名	医療法人 仁風会
事業所名	雲陽の里
所在地	島根県松江市大庭町1459-1
自己評価作成日	平成22年3月18日
評価結果市町村受理日	平成22年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.fukushi-shimane.or.jp/html/kaigojyohou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株)ワイエム
所在地	島根県出雲市今市町650
訪問調査日	平成22年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関の併設でも有り、健康管理や急変時など医療対応が手厚くできる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>雲陽の里は、精神科・神経科・神経内科の各科を有する病院を核とした医療法人の一施設として、平成14年に開設され、専門科を有する病院を母体とすることから、認知症を有する高齢者にとっては、安心して生活が続けられる基礎ともなっている。</p> <p>東に茶臼山を望み、すぐ北を馬橋川が流れる。住宅地の中にあってもホーム周囲の田畑や史跡など、四季を感じることができる自然環境に恵まれている。加えて、近くを走る国道や県道沿いには各種の商店も多く立ち並び、大型スーパーもあり、暮らしやすい生活環境である。</p> <p>医療法人の強いバックアップを柱に、「人と人とのふれあいの中で暮らす…、ここは、我が家」を目標に掲げ、「利用者の心の声を大切にし、介護の質の向上に努め、日々を静かに暮らす。」ということをスローガンしてのケアと支援の追及、そして、更なる地域との交流を目指した取組みがなされている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての理念を作り、ホーム内に掲示している。また、全職員が共有、把握している。	法人の理念を基に、日常の触れ合いや関わり合いを通して、利用者の思いや意向、希望を汲み取り、それぞれのふれあいを大切に、明るく楽しい生活を送っていただくよう、ホーム独自の理念を創りあげホーム内に明示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等のボランティア、防災での協力を行ったり、地域のなごやか会に話しをしにいく事はあるが、日常的な交流は出来ていない。	法人の他事業所と協同し、行事や防災に関するボランティアの受入れを始めとして、秋に祭りを開催し、地域住民を招聘するなどの取り組みが行われており、各種学校の体験学習等の受け入れも行っているが、日常的に地域との付き合いははできていない。	サービスをホームに全て取り入れたり、生活をホーム内だけで提供するのではなく、積極的に外部との交流を図るとともに、積極的に地域に出掛けていく取り組みが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の施設との共催で、地域の民生委員、福祉推進委員を対象に年2回認知症ケア勉強会を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回運営推進会議では運営状況の報告を行い、意見交換を行っている。 議事録はファイルスタッフがいつでも見られるようにし、必要に応じてカンファレンスでも取り上げている。	ホームの現状を報告し、会議で提案のあった事項等に関しては、ホームの運営に取り入れる体制が構築されている。	会議を単なる報告や情報交換の場にとどめることなく、会議メンバーと協働し、地域ですべての住民が安心してくらしがける福祉ネットワークの構築等、更なる積極的な取り組みが望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて、市や包括支援センターと連絡を取り、確認や情報交換を行っている。	管理者は必要に応じて、市の担当部署や包括支援センターと連絡を取り、確認や情報交換をし、サービスの質の向上を目指し取り組んでいる。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要に応じて主治医に報告をしながら対応をしている。 身体拘束を行った事例はなし。	全職員が研修会に参加しており、マニュアルも整備されており身体拘束は一切なされていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修で虐待防止法を学ぶ機会があり、ホーム内でも注意をして対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は松江成年後見センターの運営委員として参加。 必要に応じ相談を受け対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を用い、時間をとって説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常のケアや面会時などにも状態の説明を行い、意向を確認している。 また、ホーム内に苦情対応の職員と外部担当者の名前を掲示し毎月外部委員を含めた苦情解決委員会を開催している。	意見箱も設置し、地元住民2名に第三者委員を委嘱、他事業所と共同で苦情解決委員会を設置し、寄せられた意見を、運営に反映させていく体制は構築されているものの、昨年度はホームの利用者、家族等の意見は取り上げられていない。	苦情等は言い難いものではあるが、意見等も含め事業所を良くする材料として捉え、運営適正化委員会や国保連等事業所以外の窓口も家族に伝えるなどし、家族等が意見をいつでも表出できるような積極的な取り組みが望まれる。

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスの場、または勤務交代の申し送りの時等で意見交換を行っている。	日々の日報、各種会議の記録等により代表者や管理者には報告がなされており、その内容を運営に反映させる仕組みが構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務状況を報告しており、把握している。 また、資格の取得等の状況も把握をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修機会はあるが、外部での研修を受ける機会は十分ではない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	職員全体での同業者と交流が持てる機会がないため、研修参加などで交流機会を持ち、サービスの質を向上させる必要がある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時や判定会議の前の施設見学や面接を通して意向確認をしている。		

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時や判定会議の前の施設見学や面接を通して意向を確認をしている。 また、入所後も状態報告を通じて意向の確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との面会等で意向などから見極めや確認を行い、その対応を助言、援助をしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力を定期的なアセスメントで確認し、出来る事をしてもらうような援助を心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状態の説明をしたり、話の中から家族の意向を確認・理解をしながら対応を協議したり決めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や親戚など面会に来られたりしている。 特別な状況が無い限り面会や外出を制限する事はない。	面会や外出の制限はなく、親戚や近所の人との面会もあるが、ホームの支援を考えると取組みとしては不十分と思われる。	利用者本人が、地域や地域住民との関係が継続できるよう、生活習慣と生活の継続性を念頭に置き、本人を支えるための積極的なアプローチ、支援が望まれる。

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間のソファや和室・食堂のテーブルなど自由に座り馴染みの方同士で話をされたりしている。また、入居者同士の声掛けや促しなどもトラブルにならない限り見守る様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	個々の状況により、必要に応じて連絡や面談をしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の積極的なこと等を全職員でアセスメントし共有している。また、本人の訴えにも理由を聞きながら対応をしている。	本人の思いや意向に添うように努めており、意向把握が困難な場合は、“利用者主体”に主眼を置き、家族から意見を聞いたり、日々の生活から希望や意向を把握するよう努め、職員の一方的判断とならないよう注意している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時の情報提供や面談、入居後の本人・家族の話などから状況の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や受診の内容などの記録、定期的なアセスメントなどにより、現状の把握をしている。		

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に職員が全利用者についての課題の抽出も含めたアセスメントを行っている。また、アセスメントの評価項目の中に本人の意向や言動等も含めている。	定期的に全職員でアセスメントを行い、協議・検討を重ね、課題の把握を行い、介護計画に反映し共有化を図るような取組みが行われており、モニタリングに際しては、本人や家族の意向等も反映させるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や職員の気付きなどを記録し、申し送りやカンファレンスの時に共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所自体は多機能ではないが、法人内の他施設と協力しながら支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前のサービス・資源の利用についての把握をしているが、継続して同じような資源の利用は難しい。 日常的にボランティア等を受け入れながら、代替的な支援体制を考えていくことは必要だと思う。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週～2週間に一度の割合で定期受診をしている他、急変時その他の状況により相談をしている。	本人・家族等の希望に基づき、かかりつけ医でも医療が受けれるよう支援しており、また法人が医療法人であることから、関連病院との連携は取れており、毎週から隔週の割合で定期受診も行われ、訪問歯科診療などの支援もなされている。	

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を常勤で配置し、申し送り時などに体調面の留意事項や対応について確認している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した医療機関への情報提供を行ったり、面会・カンファレンス等へ出席したり、家族と連絡を取ったりしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として対応できる事については申込受付時や契約時に説明を行っている。 また、個々の状況については、場合により主治医も交え面談を行う等で対応している。	利用者全員に重度化や終末期に対する意向を聞き、把握がなされ、本人や家族かかりつけ医との協議の上、連携を図りながら対応していく方針が共有され支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について研修などで訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期的な防災訓練・避難訓練を実施し把握している。 また地域の防災協議会にも参加している。	ホーム単独での避難訓練に加え、消防署の立会いの元で、隣接する法人の他の事業所等と合同での避難訓練も行われており、日頃から災害対策に取り組むとともに、夜間も含め、他事業所等との協力体制も充実している。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや態度に注意をし、また排泄介助等も「用事かあるのだ」と自室やトイレへ誘導し、そこで介助するなど配慮している。	居室に入る時は必ずロックや声掛けがなされており、衣服の乱れや汚れ、排泄介助の際もプライバシーを大切にし、利用者の尊厳に十分な配慮がなされている。また、記録等の個人情報に関してはスタッフルームで管理がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の積極的なことやコミュニケーション能力のアセスメントを行い、それに沿って働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の状態やその時々の様子をみながら無理や強引な対応をしないように、ペースに合わせた生活をしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	能力に応じて個々で服装を選んでもらったり、家族に用意をしてもらう服などもこちらの都合で決めないようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が行い、一緒に食べたりはしていないが、場の雰囲気に合わせて見守り等を行っている。 また、個々の能力に合わせて下膳やテーブル拭き等をされている。	調理等食事の準備は職員が行い、利用者は配膳をテーブルで待っており、食事中は殆ど会話も聞かれない。食事中職員はキッチンから見守っている状況であり、利用者と一緒に準備や食事は行われておらず、食事中の会話も少なく寂しい印象を受ける。	食事は日常の生活の中でも大きな楽しみでもあり、また、調理・炊事等の役割りを得ることで喜びを味わえる機会でもある。職員全員で「食事を楽しむ…」ということ話し合い、食事が楽しめるケア提供が望まれる。

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の健康状態などを把握し、必要な支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	不穏時には強制せず様子を見たりしながら、個々の能力に応じた声掛けや見守り・介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の能力や状態を把握し、誘導やパット・紙パンツの確認や交換等を行っている。	排泄チェック表などから利用者一人ひとりの排泄のパターンを職員が把握、利用者の身体機能等に応じ、適時に誘導することにより、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の献立や水分量の確認、状態観察、主治医との連携などにより対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は一人ずつ入ってもらっている。 入浴された日時の把握もしており、拒否のある方には時間を置いて再度の声掛けをしたり、日時の調整を行うなどして、強引にならないようにしている。	入浴に関してはあくまでも本人等の希望に合わせた入浴ケアが提供されている。 入浴を拒む利用者に対しては、言葉掛けや対応の工夫等によって一人ひとりに合わせた入浴支援がなされている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動参加や離床の促進などで生活リズムが崩れないようにしている。 また、時々状態などをみながら休息や就寝の援助をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬については一覧表を作っている。また、能力に応じた介助で確実に服用できるようにしている。 症状なども気付いた事は記録に残し、診察時に報告等を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ、レクリエーション掃除・洗濯等出来る事で役割を持ってもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩などをしてもらっている。 普段行けないような場所への外出などはなかなかできていない。	ホーム周辺の散歩や周辺施設の利用、レクリエーション外出は行われているが、職員体制の関係から、日常的な外出支援の取り組みは不十分である。	ホームの周囲には、自然や、住宅、スーパーなどがあり、散歩や買い物など気分転換につながる日常的な外出支援の環境には恵まれているので、利用者希望に沿った外出への支援が望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を持っている方はおられない。 施設管理も無く、ご家族が管理されている。		

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が取り次いでいる。 また、本人に掛かって来た電話も必ず取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のおられる場所からの音や光の具合に常に配慮している。 また、毎日の清掃で環境の確認をしたり、花を置いたりして対応している。	玄関、台所、トイレ等共用空間はスペースが大きく取られており、食堂を兼ねた居間は吹き抜けで外の光を多く取り入れる構造であり、白を基調とした空間は掃除も行き届き清潔である。 花も置かれており、季節感も感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内に長椅子を設置、居間のソファや食堂のテーブルなど自由に座ってもらったり、慣れた位置に座ってもらったりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	設置家具の他に、家具やテレビなどの持込は自由で、好みに合わせた部屋にできるように配慮している。	居室に置かれたホーム設置の家具は木目調であり、利用者の家から使い慣れたテーブルや椅子、テレビや家具の持ち込みもあって、利用者個々の希望にそった居心地のよい環境づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの出来ることを把握しながら、移動方法や作業の場所などを考えて生活を送ってもらうようにしている。		